

東丹沢・中津川 二十女沢

大濱

【日時】 2013年11月10日（日）

【メンバー】 L煤孫、SL福永、大濱

二十女沢の遡行適期は10月中旬～11月中旬。これより早い時期にはヒルがうじゃうじゃで、常人は立ち入らない。短いベストシーズンを狙って入渓してみると、晩秋のひっそりした空気が似合う、味わい深い沢でした。

北岸林道は午後7時～翌朝7時まで通行止めのため、手前の公園で前泊する。屋根付きですこぶる快適。が、深夜2時過ぎ、前夜祭を切り上げて寝ようとしたら、遠くで「この車の持ち主誰!？」と声がする。慌ててテントから飛び出すと、なんと赤色灯をつけたパトカーが！ゴミをまき散らしていく輩がいるので、パトロール中とのこと。お巡りさんも大変だ。超不審者扱いで職質されたが、事情を説明すると「気を付けて」と去っていかれた。最初「明朝、沢に入るのでここで前泊を…」と答えたら、「何言ってるのか意味が分からない」と余計に警戒された。…そりゃ普通はそうですよね。

明け方、ドリフト族によるスキール音が辺りに鳴り響き、絶好かと思った前泊地の価値を半減させた。

7:50 県道沿いに駐車して出発。フェンスを越え、宮が瀬湖に架かる立派な橋を渡り、沢沿いの林道を標高450m上の終点まで進む。



【上流部の紅葉は終わりかけ】

8:40 枝沢から下降し、二十女沢に降りる。落ち葉が積もった谷底は明るく、気持ちがいい。左岸から流れ込む滝を見て沢は左にカーブし、可愛いミニゴルジュに入る。やがて正面にオオユナラノ沢が現れ、本流は右へ。3mCS滝はお助けを出して頂き、右壁を登った。

へつたりり脛まで浸かったりしながら、それぞれ思い思いに進む。ナメの溪相を成す沢底は、虎目石のような縞々模様だったり、トルコ石の

ように青緑色だったりして楽しい。この沢で一番大きい8m滝は、煤孫さんは左岸（悪かったそう）、私達は右岸から巻く。手を使わずフリクションだけで登れるような、寝ている滝が多い。次の8m滝は、泥付きで落ち葉に埋もれた右岸から慎重に巻いた。

10:10 炭焼窯跡で休憩。これを過ぎると水量が減り、2～3mの小滝がポツポツ。いよいよ水が枯れると倒木混じりのガレとなり、略三角錐状の奇岩を見て、三俣に出る。せっかくだから鍋嵐のピークを踏みたい、と3つの内では一番傾斜のある、鍋嵐に突き上げる真ん中を選ぶ。

やがてグズグズの急斜面となり、先頭を歩いていた私に怠け心が働き、左手に見える岩肌から進もうとする。が、これがボロボロ。石を落としまくり(すみませんでした!)、先輩方はこれを避けて沢筋に戻る。私は戻るのも怖い場所にいたので、そのまま直進。50cm超の石を豪快に落としながら、なんとか稜線に上がった。先回りしてロープを出せるように準備して下さっていたお二人にも、心配をおかけしてしまった。

11:30 鍋嵐の小さなピークを踏む。一休みしてから、尾根筋を辿って下山を開始する。道筋には十分な踏み跡とテープがついていて分かり易かったが、1か所、仕事道に沿って隣の尾根に入ってしまう、軌道修正した。

13:35 湖岸林道着。湖岸は赤や黄色に美しく色付いてました。



【3mCS滝】



【トルコ石みたいな沢底】



【稜線から宮ヶ瀬湖を望む】

【行程】 駐車スペース (7:50)～林道終点 (8:40)
～入溪 (8:45)～オオユナラノ沢出合 (9:10)～炭
焼窯跡 (10:10/10:20)～鍋嵐 (11:30/11:40)～湖
岸林道 (13:35)～駐車スペース (13:45)

【地形図】 青野原・大山

【グレード】 1級上

